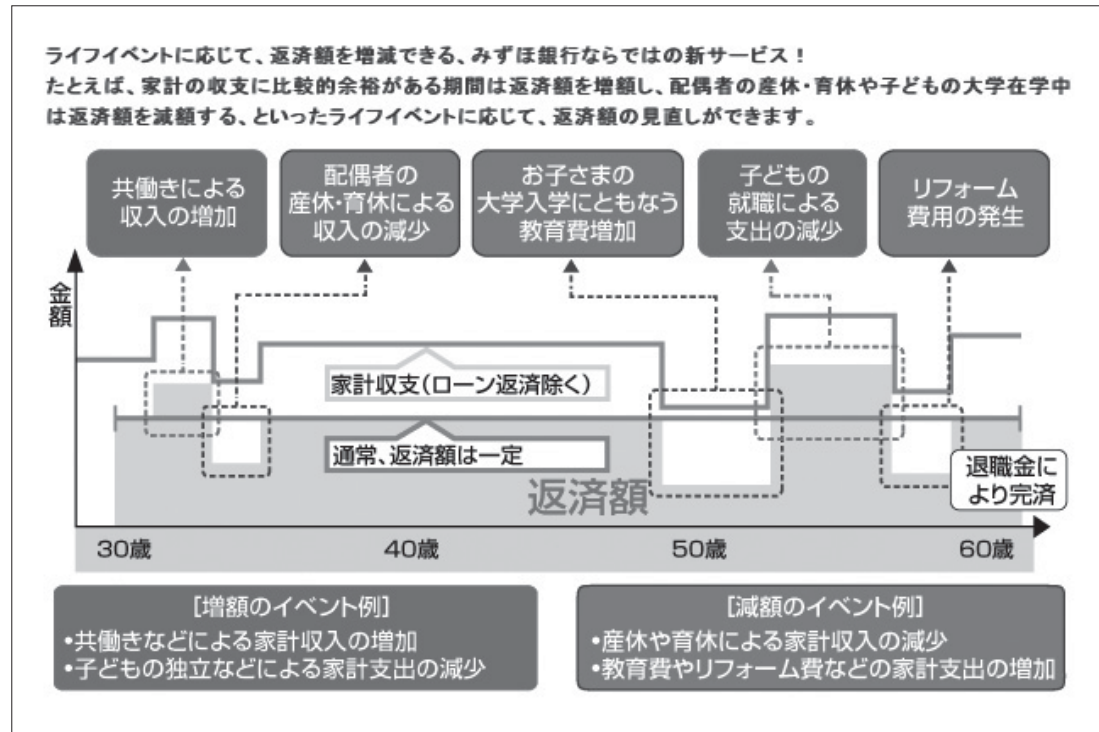


図表1 ライフステージ応援プランの利用イメージ



ン。早速、その概要を以下で紹介したい。

減額は借入期間の延長か 一定期間の返済額減額を選択

ライフステージ応援プランは、お客様のライフイベントに応じて住宅ローンの返済額を「増額」「減額」できるサービス。図表1に挙げたイメージ図のように、お客様が、自身の家計収支に応じて月々の返済額を柔軟に増やしたり、減らしたりすることができるとが特徴だ。

例えば、共働きで家計に余裕がある、また子どもが独立して教育費がかからなくなった。このような状況では、返済額を「増額」。これにより元本の返済が進むことになり、増額期間経過後はサービス適用前に比べて返済額を減らすことができる。結果的に将来のライフイベントや、それに伴う家計支出の増加に備えられるわけだ。

増額については、後述する「減額」とは異なり、利用にあたって条件はほぼなく、増額させる金額

もお客様が指定することができ

一方、ライフステージ応援プランは返済額の「減額」にも対応可能。お客様の関心が高いのも、こちらのほうである。

夫婦共働きを前提として住宅ローンを組んだものの、「妻が妊娠し、産休・育休を取るようになった」「子どもが私立大学に入学することになり、入学金や授業料が想定以上にかかる」。このようなケースで、月々の返済額を一時的に減らせることができるわけだ。

減額の方法は二つ。①借入期間の延長と、②一定期間の返済額減額である。

①借入期間の延長は、延長後の借入期間を35年の範囲で延ばし、その分、月々の返済額を減らすタイプである。

返済が進んでいれば 減額幅も大きくなる

一方、②一定期間の返済額減額は、返済期間を変えずに、一時的に返済額を減らすことができる

みずほ銀行 住宅ローン・ライフステージ応援プランの商品性



金利以外の部分で 住宅ローン商品を差別化

家計収支に合わせた返済額の増減により安心感を提供する

金利以外の部分で差別化を図るサービスを打ち出す

みずほ銀行は今年8月19日より、住宅ローンに新しいサービスを追加。お客様のライフイベントに応じて、返済額を増減させることができる「ライフステージ応援プラン」の取扱いをスタートさせた。

産休・育休、教育費用といった家計収支の変化に応じて月々の返済額を見直せるという同サービスについてレポートする。

金利以外の部分で住宅ローン商品を差別化

金融機関にとって、収益の柱の一つとなっているのが「住宅ローン」である。個人取引獲得・深耕の力ギとしての金融機関も力を入れてきているのだが、それに伴い「金利競争」も激化。適用金利も限界といえるところまで下がってきており、各金融機関で差が付きにくい状況になっている。

今般、みずほ銀行が取扱いを始

めたサービスは、そのような状況に一石を投じることになるのではないか。

返済途中で変更が難しかった月々の返済額を、お客様のライフイベントに応じて柔軟に増減させられる「ライフステージ応援プラン」を開発したのだ。

「住宅ローンといえば、どうしても金利が注目を集める中、当行としては金利「以外」の部分で差別化を図るためのサービスを考えてきました。そのような中で、住宅

ローンは最長で35年という長いお取引になること、長期にわたる返済の途中ではお客様の状況・家計収支も変動することから、柔軟に返済額を変えられることへの関心が高いと判断し、今般「ライフステージ応援プラン」の取扱いをスタートさせました」(ローン業務開発部業務管理室・中西健太郎調査役)

8月19日のサービス開始以降、営業店への問合せも増えているという「ライフステージ応援プラン」